今日のイラスト 414　「 イラストでたどる萩往還㉓ 藩庁門」　　古谷眞之助

イラストでたどる
萩往還 23 藩庁門

県庁の入口にある藩庁門付近は萩往還ではないが、是非紹介しておきたい。幕末、有事に備えて萩藩は政治の中心を山口に移した。いわゆる山口移鎮と呼ばれるものだが、それに伴って元治元年（1864）に完成した山口御屋形の表門が薬医門形式のこの藩庁門で、太い欅や松が重厚な雰囲気を醸し出している。その一部には江戸上屋敷から運ばれてきた用材が使用されているという。この門と同時に完成したのが現在の県庁エリアとほぼ重なる西洋式城郭・山口城で、藩庁門や堀、かすかに残る土塁などはその名残である。

幕末維新に作られた藩庁門前に立てば、大正5年竣工の旧県庁舎、昭和54年竣工の現庁舎とを同時に視野に入れることが出来る。

文・イラスト＝古谷眞之助

本文にも書いたことだが、山口藩庁門の前に立てば、この門に加えて旧県庁舎、現庁舎という風に、幕末明治、大正、昭和の 3 世代にわたる山口県の政治の中心の建物を同時に眺めることが出来る。このような特異な状況を今も保っている県は、おそらく山口県をおいて他にないのではないだろうか。それが地元山口市民の自慢の一つである。もし、読者の方で、我が〇〇県にもちゃんとあるぞ、という方がおられれば是非教えていただきたいものである。

小写真下が旧県庁舎で、その背後が現庁舎である。手前の庁舎を見て、何か似ているなぁ、と思われた方は鋭い方だと思う。というのも、国会議事堂の原案を設計した妻木頼黄の指導の下、武田五一と大熊喜邦とが設計したため、全体的な雰囲気が似ているのである。こちらが大正５年(1916)完成、国会議事堂の完成は昭和 11 年(1936)である。藩庁門の右側の脇門は常に開けられているが、本門の方は、何か特別のイベントとの時にしか開門されない。旧県庁舎は現在「山口県政資料館」として利用されており、この右手にある旧議会棟も諸団体のイベント用に貸し出されている。所属する「やまぐち萩往還語り部の会」も総会会場として使用させていただいているし、明治維新 150 年の時には議事堂内で記念講演会を開催し、私も演者の一人として萩往還についてお話しする機会があった。（2021.2.24 記 ）